

31～33年度支援部事業計画

ビジョン
障がい者とそのご家族がここで生まれ育ってよかったと思える満足一番地域を創り出せる法人となる

部門名	シナリオ	方針	定員等 事業所名	ビジョン実現のためのロードマップ			
				31年度	32年度	33年度	
日中	日中事業所センターを 設置し、手厚い支援とサービス メニューの中で圏域に暮らす障 がい者が日中活動(支援)を通 して生活全般が向上し、充実し ている。	○入所が行う従たる事業所(5 か所)を分離、併せて統廃合に よるスケールメリットを活かし サービス向上を図る。 ○ふつくら、つむぎ、ときわ広場 等の定員不足分を新規利用者 に利用して頂くことで圏域の潜 在的なニーズ、デマンドを掘り起 こし福祉向上に努める。 ○多機能事業所のサービスの 刷新を行い職員体制を充実させ サービス種はそのまに質の高い シンプルな事業体系にする。 ○就労B等の働く希望のある高 齢障害者に対して、介護支援を 充実させた働くサービスメニュ ーを創出する。 ○買貨物件等の統廃合により 建物設備コストの削減を図る。 ○のぞみの郷高社の日中支援 型GH化により更なる地域移行と 生活の質向上を図る。	事業所名 うまし苑、まーぶる、たけはら、ふつくら、かすたねつと等 ①しおさい→うまし苑の従たる事業所へ(6月～) ②まーぶる、たけはら→うまし苑に入り新生活介護事業所としてOPEN(6月～) ③上記に伴い高社生介60→40 ④ねくすと、重度加算Ⅱを取得 ⑤ほくずい→うまし苑の従たる事業所へ(10月～) ⑥高社「はびり」をうまし苑へ、高社40→20(10月～) ⑦ときわひろばプロモーション。ターゲットは新規利用者(入院、引きこもり、継続B卒業高齢者 5名) ⑧ふつくら→新規利用者5名獲得(卒業生) ⑨高社生介入所新規1名獲得(加算Ⅱあり) ⑩ふつくら高齢利用者5名→高社、ながみね、うまし苑の生活介護へ(10月～) ⑪ねくすと利用者→ほくずい、うまし苑、しおさいへ(できる限り) ⑫ふつくら、つむぎプロモーション。ターゲットは新規利用者(入院、引きこもり5名)	うまし苑、まーぶる、たけはら、ふつくら、かすたねつと等 ①うまし苑の機能と利用者→ねくすとへ ②ねくすと利用者→ほくずい、うまし苑、しおさいへ移行取り組み ③高社たんぼぼ、ひまわり、入浴等の機能と利用者をうまし苑へ。 ④上記③に伴い高社40→20へ ⑤ふつくら就労移行、ねくすと自立訓練廃止 ⑥高社ほかほか廃止	うまし苑、まーぶる、たけはら、ふつくら、かすたねつと等 ①うまし苑の機能が完全にねくすとへ。 ②ねくすと利用者は3～5名を残し職員と共に分散。 ③うまし苑に高社生活介護機能が完全移行(入浴サービス等々)。 ④かすたねつと→うまし苑内に移行。 ⑤のぞみの郷高社日中支援型GHへ(岳南センターへ)。		
				①③④⑤重度加算Ⅱ取得(12名想定)、配置加算は勿論意識。これにより強度行動障害の方への支援の質向上。 ②スケールメリットにより3名の職員を生み出し重度高齢支援へ充てることによりサービスの向上。副次的効果として14万家賃減/月(まぶる、たけはら)。 ③⑥⑪日中支援型GHへの移行のため定員減、これにより日中活動環境の向上と併せて生活の質が向上。副次的効果としてGH移行まで生介単価増。 ⑦⑧⑨⑩⑫新規利用者獲得により地域のサービスにつながっていない障がい者がサービスにつながることによりその方の生活の質が向上。また高齢でも介護支援がしっかりと用意された事業所において働く活動を提供することにより、人生の終焉まで希望に基づいたサービスの提供が可能となる。副次的効果として新規利用者利用(10名)による収入増とサービス種変更により収入増。 ⑪ねくすと利用者の日中活動の選択肢と質の向上、各事業所のスキルアップが望め、複雑な障がいに対して複数の事業所が対応できる事となり圏域の支援力アップ。またその後行われるねくすとの建物が生活介護の主たる事業所となるために。	①残る高社の機能と利用者の受け入れを行うためにうまし苑はねくすととの分散状況に合わせてその機能をねくすとへ段階的に委譲していく。それにより高社の居住者の生活の質の向上が図られ、また日中活動の環境、支援共に向上する。 ②③④うまし苑機能と利用者受け入れのため、また高社GH化に向けて 居住者の生活の質向上とねくすと利用者の日中活動サービスの向上、合わせて各事業所の専門性の向上が図られる。副次的効果として移行まで生介単価増がある。 ⑤職員配置の効率化によりサービスの質向上。副次的効果として報酬単価増。 ⑥行政サービス等の向上と少子化により「ほかほか」の必要性はなくなっている。よって段階的に廃止し、そこに充てていた職員2～3名を重度高齢の利用者サービスの向上に充てていく。	①②③④生活介護事業所が完全に分離し日中活動のサービスの質向上が図られる。その中核として事業所の一つは就労系事業所を含む日中活動センターとなる。日中事業が完全に高社から分離したことにより設置基準に照らし合わせて改築、日中GHとなり居住者の生活の質が向上する。また短期入所の床数が増え、地域で暮らす障がい者とそのご家族の安心感が向上する。副次的効果としてサービス事業変更に伴い収入増となる。	
				見た目としてどうなるか。	★うまし苑はまーぶる、たけはら、高社の一部の生活介護を吸収した独立事業所となる。その従たる事業所が「しおさい」、「ほくずい」となる。 6月定員20名10月定員40名 ★まーぶる、たけはらの買貨物件を返却する。 ★新規利用者が15名増となる	★うまし苑の31年の機能がねくすとへ移行しうまし苑には高社の機能が入る。 ★ねくすとには31年のうまし苑の機能と利用者、強行者3～5名が残る程度で動いていく。 定員40の事業所 ★主たる生介事業所が上記二つとなる。 ★ふつくらは就労B単独事業所となる。	★日中支援型GH(高社)ができる ★主たる単独生活介護事業所3つ(ねくすと・うまし)と、就労Bの単独事業所が2つ(ふつくら、つむぎ)、放デイ(やまと、コンパス)の合わせて5事業所が主たる日中事業所となる。付随して従たる生介事業所(しおさい・ほくずい・ときわひろば)もある。
				事業所名 りんく、高社、ながみね	りんく、高社、ながみね	りんく、高社、ながみね	
居住	居住全般の生活支援 センターを創出し、入所者、GH 入居者と、圏域に暮らす全ての 障がい者とそのご家族が安心し て暮らすことができている。	○GHの組織を大きく北と南の二つに分ける。 ◆北：戸狩、ときわ、下水沢、たまら、静岡、エムハイヴ(31名) ◆南：かたしお、EAST、さんぼ、柳沢、一番館、岩船、湯田中、かおる、江郎(40名) 北の拠点は「ながみね」南の拠点は「高社」となり、りんく職員をふりわける。また利用者の介助率に合わせGHに利用者を再編し、24h365日の支援体制を強固にするとともに、職員配置の効率化を図る。 ○西条ホームを廃止し、建物コストの削減と人員体制の効率化を図る。 ○上記の流れで夜勤体制が必要なGHには夜勤体制をとり居住者の安心感とサービス向上を図る。	事業所名 りんく、高社、ながみね ①りんく事業廃止。合わせて職員北と南に異動(5月31日をもって) ②ながみね入所者3名がGHへ地域移行 ③高社入所者2名がGHへ地域移行 ④ながみね40→37、高社29→27名に減員 ⑤さんぼみちの職員体制を上記日中で生み出す職員とながみね余剰分で夜勤体制とする。 ⑥下水沢の利用者再編により自立的GHへ。宿直等の夜間体制をなくす。	①高社入所者3名が地域移行27→24名へ ②高社日中支援型GHに向けて着手	①高社24名→20名、日中支援型GH着工完成 ②これまでの部門ごとの取り組みから経営状況が改善される。その効果によりながみね改修工事の着手		
				①⑤職員配置等GHの支援体制を再編することにより24h365日の支援体制が強化されることによりリスクが減少、居住者の安心感が向上。 ②③④利用者の意思に基づき地域移行。ノーマリゼーションの実現。副次的効果として地域移行による単価、加算増で収入増。高社日中GHに向けても減員。 ⑤さんぼみち界隈を夜勤体制をとり居住者の安心感を向上。また夜勤配置加算による収入増という副次的効果。 ⑥人員の配置を刷新しより特色あるGHを構築。安心感有る住まいの選択肢を創出。副次的効果として人件費減。	①地域移行によるご本人の希望に基づいた暮らし実現と高社入所者の生活の質向上。日中支援GHへ向けて ②高社入所者の生活の質向上と地域で暮らす障がい者とそのご家族へのサービス向上と安心感増。	①高社居住者の生活の質向上と短期入所床数増による圏域に暮らす障がい者とそのご家族の安心感の増。副次的効果としてサービス種変更により報酬増。 ②ながみねに入所されている方々の生活の質向上。 ③はるかぜの機能を高社に委譲。それによりはるかぜ短期入所部分の在り方の検討に着手。	
				見た目としてどうなるか。	★りんくという事業所はなくなる。 ★西条ホームがなくなる。 ★下水沢、戸狩ホームの宿直体制がなくなる。 ★南、北の居住に関して高社、ながみねがそれぞれ24h365日の支援センターとして機能する。 ★さんぼみち界隈が一つの組織として職員体制が作られる。	★ほかほかがなくなる	★高社が入所施設から日中GHとなる。
				事業所名 やまと、総合安心センターはるかぜ	やまと、総合安心センターはるかぜ	やまと、総合安心センターはるかぜ	
居宅	児童から成人、高齢 障がい者とそのご家族が地域 で安心して生活が継続でき、希 望を持った地域生活が送れて いる。	○「やまとサービスセンター」と「総合安心センターはるかぜ」の役割を明確にし、圏域全体における在宅生活の24h365日途切れぬ支援の強固な土台を構築する。 ○コンパス(放課後デイ)での活動と保育所訪問の取り組みを通して児童期から将来を見据えた支援、対策を検討しライフステージに合わせた途切れぬ支援を構築し、障がい者とそのご家族が安心して人生を送れるようになる。 ○かすたねつとの活動場所をうまし苑内に移動し、サービスの向上を図る。	事業所名 やまと、総合安心センターはるかぜ ①やまと、総合安心センターはるかぜの機能と役割を確認。年度内には両事業所の組織体制が構築されている。 ②コンパス、保育所訪問の利用者と訪問数を増やす。	①やまと、はるかぜの連携体制を強化する。その一環として人事異動等、組織体制の再編を図る。 ②コンパス、保育所訪問の利用者と訪問数を増やす。	①現在のはるかぜの機能を日中支援型GHとなった高社に委譲。はるかぜ短期入所部分の今後の在り方について検討を始める。 ②コンパス、保育所訪問の利用者と訪問数を増やす。 ③やまと改築		
				①ある意味縦割りであった2拠点の居宅事業所が方向性、サービス対象者や提供システムを共有することにより圏域の在宅サービスの向上が図られる。またスケールメリットを活かした24h365日の支援体制が構築されることにより、より重層的できめ細やかな在宅サービスが提供できるようになる。副次的効果としてスケールメリットによる職員体制強化により利用者増による収入増がある。 ②圏域に暮らす障がい者とそのご家族の安心感を広げ、ライフステージにおける途切れの無い支援が構築され地域生活の継続が図られる。	①31年度で再編・強化された役割、機能を更に人事を含めた組織再編により強固なものとして、圏域全体の24h365日の在宅障がい者へのサービスの向上が図られる。 ②圏域に暮らす障がい者とそのご家族の安心感を広げ、ライフステージにおける途切れの無い支援が構築され地域生活の継続が図られる。	①はるかぜの6床分の短期入所と日中支援型GHとなった高社の8床分の短期入所でより圏域の在宅生活の安心感が図られる。はるかぜ6床に関してはGHとする方向性も検討し、障がい者の暮らしの場の選択肢を広げること考え、親なき後に備えることができる。 ②圏域に暮らす障がい者とそのご家族の安心感を広げ、ライフステージにおける途切れの無い支援が構築され地域生活の継続が図られる。 ③これまでの取り組みにより経営を改善。やまとの改築により放デイ等利用者の環境の改善、サービス向上が図られる。	
				見た目としてどうなるか。	★特に見た目としては大きな変化はない。	★特に見た目としては大きな変化はない。	★のぞみの郷高社がこれまでのはるかぜの機能をもち、やまとと共に圏域の在宅障がい者とそのご家族の24h365日を支えている。
				事業所名 ながみね、つむぎ			
相談	相談支援体制の充実を図り、支援部との連携も含め、圏域に暮らす障がい者の多様なニーズに応えられるようになっている。 また、ライフステージに応じた途切れない相談体制を構築し、圏域の障がい者が安心して人生を過ごすことができるようになっている。	○岳北と岳南に相談支援拠点をそれぞれ置くことで相談支援体制の強化と質の向上を図り、併せて支援部と両相談拠点が密に連携を図って適切なサービスをタイムリーに提供できるようになる。	事業所名 ながみね、つむぎ 岳北の拠点を現在の事務局建物内に置く。岳南の拠点はつむぎとして体制を整備する。 各事業所でそれぞれ配置されていた相談員が2箇所に集まることにより情報の共有と効率化が図られる。また圏域全体にサービスを提供する支援部との連携と情報共有を密にすることにより当事者へのサービス情報と提供が充実する。 各事業所の相談員が岳北(ながみね)と岳南(つむぎ)に分かれ相談支援事業が行われる。				
				効果・利益			
				見た目としてどうなるか。			
				事業所名 ながみね、高社、はるかぜ、りんく			
医療、保健	圏域の障がい者の重度高齢の課題に対して、医療支援体制を整備強化し、当事者の皆様が安心して人生を過ごすことができる圏域となっている。	○医療、保健に関わる資格者等が集い、圏域と法人内の重度高齢課題への対策を考える。 ○法人内に医療、保健に関わる拠点を整備し法人内に関わらず、圏域全体の重度高齢状態となった当事者に支援を提供できるようにする。	事業所名 ながみね、高社、はるかぜ、りんく				
				運営、設備計画			
				効果・利益			
				見た目としてどうなるか。			